

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03482

研究課題名(和文) 占領下の沖縄における「抵抗と交渉」の政治社会史 - コザと伊江島の分析を中心に -

研究課題名(英文) A study on the political and social relationship between U.S. forces and Okinawans under U.S. occupation.

研究代表者

鳥山 淳 (TORIYAMA, Atsushi)

琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授

研究者番号：60444907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、阿波根昌鴻資料(伊江島の反基地闘争の資料)と大山朝常資料(元コザ市長の資料)の目録データを活用して、米軍統治に対する地域住民の「抵抗と交渉」の諸相を明らかにする重要な記録を選別し、複製資料の作成作業を行った。阿波根昌鴻資料を用いた研究では、米軍占領下の伊江島における基地問題に関連する記録を作成年別に整理し、1962～72年に作成された計211点の文書をデジタル画像化して公開できる状態とした。大山朝常資料を用いた研究では、米兵相手の歓楽街の管理・統制に関する詳細な記録を調査し、米軍による管理手法とそれに対する業者や行政の対応が記述された重要な記録をデジタル画像化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が利用した阿波根昌鴻資料と大山朝常資料は、占領下の沖縄社会において重要な役割を担っていた個人が所蔵してきた文書類であり、沖縄県内の関連機関が所蔵している資料群とは異なる性質を有している。その詳しい内容が確認され、そこに含まれる重要な記録が今後の研究で活用されることによって、地域社会の具体的な動向をふまえた沖縄現代史の記述が可能となり、米軍と地域社会との関係性を複眼的に読み解いていくための視座を構築することに寄与できる。

研究成果の概要(英文)：This study used lists of documents collected by Shoko Ahagon(an activist in local residents movement in Ie-son)and Chyojyo Oyama(former mayor of Koza)to describe the relationship between U.S. forces and Okinawans. By the research of documents collected by Shoko Ahagon, we found important documents regarding the military base problem in Ie-son and digitized 211 document for the purpose of disclosing hereafter. By the research of documents collected by Chyojyo Oyama, we found detailed records regarding administration of red-light district in Koza City and digitized important documents.

研究分野：沖縄現代史

キーワード：沖縄 占領 コザ 伊江島

1. 研究開始当初の背景

近年の沖縄現代史研究は、従来の政治史的なアプローチを参照しつつ、そこでは十分に捉えられてこなかった社会の変容や人々の日常的な実践を具体的に描くことを重視しはじめている。そのような視点は、ややもすると一面的に記述されがちであった占領への向き合い方を複眼的に捉え直し、政治社会状況に応じて変化していく過程として人々の動きを記述する可能性を広げてきたと言える。

このような視点を深化させるために、本研究では「抵抗と交渉」という分析軸を設定するとともに、具体的な分析にとって必要な資料が遺されている2つの地域に焦点を当て、米軍と日常的に関わり合う状況に立たされた人々の主体性を動的に捉えることを意図している。占領下における米軍の統治政策に対して明確に異議を唱えて対峙しようとした「抵抗」の側面とともに、米軍との間に一定の持続的な関係を構築することによって問題の改善を図ろうとした「交渉」の側面にも注目することによって、占領に対する両義的な姿勢を描き出すことが可能となる。

このような複眼的な観点から人々の日常的な実践を捉え直し、ある局面において米軍との協調関係を構築しようとする主体性をも排除することなく、分析を展開する。演習場とされた伊江島と米兵相手の歓楽街となったコザは、占領下を生き延びようとする人々の主体性が多様な形態をとって表出する重要な場所であり、「抵抗と交渉」という両義性を帯びた分析軸を設定することが有効となる。

2. 研究の目的

本研究は、占領下の沖縄における住民の思考と行動を「抵抗と交渉」の観点から捉え、占領に向き合う主体性を複眼的に解明することを意図している。その際に注目するのは、米軍の射爆場として土地収収が強行された伊江島と、嘉手納基地に隣接して歓楽街が形成されたコザである。この2つの場所は、占領者との関係が相当な密度をもって展開された空間であるとともに、当該地域に関する具体的な記録が個人資料として保存・整理されている貴重な事例となる。そのような条件を活かして分析を深め、「抵抗と交渉」という複眼的な観点から描くことを通して、占領下沖縄の政治社会史研究を実証的に高めることが可能になると考えられる。

また本研究を通して関連する資料状況を把握するとともに、重要な資料についてデジタル画像化の作業を実施することによって、複製資料による公開・閲覧を可能とする資料的な基盤を整備することができる。それによって、沖縄県内の公文書館・図書館などが所蔵していない新たな資料の活用が可能となり、米軍と住民との間に生じていた両義的な関係性を描き出す研究の展開に寄与すると考えられる。

3. 研究の方法

本研究が主に依拠する2つの資料群は、占領下の沖縄社会において重要な役割を担っていた個人が所蔵してきた文書類である。沖縄県内の市町村の文書は戦後に関しても利用可能な資料がきわめて限られているため、本研究が依拠する伊江村とコザ市の行政記録によって、地域社会の動向に関する研究を深めることが可能となる。

伊江村に関しては、同村にある「わびあいの里 反戦平和資料館」が所蔵する阿波根昌鴻資料の調査活動によって作成された資料目録データを活用し、米軍と地域住民との間に生じた関係性を捉えるための資料を選別した。その作業によって、伊江村における基地問題に関連する資料リストを作成し、資料の作成年ごとに分類しながらデジタル画像化を行い、複製資料として閲覧可能な状態とした。なお阿波根昌鴻資料については、継続的な調査方法の確認・修正および保管環境の整備や修復作業が必要となるため、各年度とも2回の調査期間(4日間)を設定し、研究代表者・研究分担者・連携研究者および研究協力者あわせて10~15名の規模で集中的に作業を実施した。

コザ市に関しては、沖縄国際大学南島文化研究所が所蔵する大山朝常資料の資料目録データを活用し、嘉手納基地に隣接した都市に特徴的な資料の選別を行った。その作業をふまえて、基地周辺の歓楽街をめぐる米軍と業者・労働者・行政当局との関係性を捉えるための資料についてデジタル画像化を行い、複製資料として閲覧可能な状態とした。

4. 研究成果

(1) 伊江島における軍民関係の記録

阿波根昌鴻資料の目録データを用いて、伊江島における基地問題に関連する資料を作成年ごとに把握し、デジタル画像化の作業を行った。本研究における作業対象期間は1962~72年であり、各年のデジタル画像化の資料点数は下記の通りである。

1962年：10点

1963年：7点

1965年：7点

1966年：20点
1967年：74点
1968年：33点
1969年：21点
1970年：1点
1971年：14点
1972年：24点

以上の資料点数は合計で211点であり、本研究の以前にデジタル画像化を終えていた1961年以前の点数と合わせると、総計で395点となった。そこには、「伊江島土地を守る会」をはじめとする住民団体が作成した文書や軍用地の賃貸契約に関する記録などが多数含まれている。その記録によって、伊江島における基地問題の実情を詳しく把握するとともに、米軍が引き起こした事件・事故に対する住民の反応を正確に確認することが可能となった。伊江島の動向については同時代の新聞報道において十分に確認できない部分もあり、住民自身が作成した記録を参照することによって「抵抗」の論理を捉えることが可能となった。また、阿波根昌鴻氏の著書『米軍と農民 - 沖縄県伊江島』（1973年）が依拠していた記録を把握するうえでも、本研究によって確認された資料群は重要である。

上記のデジタル画像化と並行して、1950年代半ばから阿波根氏をはじめとする伊江島住民らで使用していた手書きノート類を調査し、伊江島における基地問題の経緯を詳細に記録しているノートを確認した。その記述は手書きのため判読困難な箇所が多く、デジタル画像による公開では活用が困難であると判断されたため、資料翻刻の作業を行ったうえで「わびあいの里 反戦平和資料館」が「阿波根昌鴻資料」シリーズとして発刊することになり、これまでに「真謝日記」「陳情日記」「爆弾日記」の3冊が発刊された。

（2）コザにおける軍民関係の記録

大山朝常資料の目録データを活用して、1950年代～70年代のコザにおける米軍と住民との関係性を映し出す資料を選別し、重要性が高い文書のデジタル画像化を行った。その大半は米兵相手の歓楽街における衛生管理と営業許認可に関する記録であり、「Aサイン」の運用に関する詳細な記録などから、米軍との具体的な交渉の内容を把握することができる。その資料群によって、歓楽街の存立基盤となっていた「米琉親善」の実情とそれに対する住民側の対応を確認することが可能となるとともに、その関係性の中で行政当局が果たしていた役割を把握することができる。

また大山朝常資料に含まれているコザ市関連の刊行物のうち、沖縄県内の関連機関（県立図書館・公文書館など）での所蔵が確認できないものについては、沖縄現代史研究の基礎資料として有効的に活用されることが期待されるため、ゼロックスコピーによる複製資料を作成して、今後の公開・閲覧に対応できる状態とした。その内訳は、産業関連5点、社会福祉関連6点、軍雇用関連3点、学校記念誌2点である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鳥山淳	4. 巻 910
2. 論文標題 島ぐるみ闘争と辺野古の「選択」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山淳	4. 巻 54
2. 論文標題 沖縄をめぐる依存/自立をめぐる議論を再設定するための歴史的文脈	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 47-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 993
2. 論文標題 ジェンダー・女性の経験の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山道宏	4. 巻 42
2. 論文標題 日本復帰前沖縄の政治経済と経済界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥山淳	4. 巻 42
2. 論文標題 砂糖とともに継続する歴史経験 - 沖縄から見える現代を掘り下げるために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PRIME	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山道宏	4. 巻 42
2. 論文標題 平和ノ暴力への問いと「沖縄平和論」の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PRIME	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高江洲昌哉	4. 巻 14
2. 論文標題 戦争経験をどのように引き継ぎ,主体的に考えるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山スタンダード論集	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山道宏	4. 巻 5
2. 論文標題 日本復帰前の沖縄における米軍基地と生活をめぐる認識の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 琉球・沖縄研究	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高江洲昌哉	4. 巻 963
2. 論文標題 境界領域をめぐる不条理 近代史部会 人々の実践と生活世界の変容	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 119-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高江洲 昌哉	4. 巻 949
2. 論文標題 近代沖縄の歴史経験と変遷する歴史像	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山 道宏	4. 巻 288
2. 論文標題 グローバル化の推進のもとでの沖縄経済の変容：脱軍事化・脱公共事業依存と日本国家	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 34-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鳥山淳
2. 発表標題 阿波根昌鴻資料の意義と調査活動の歩み
3. 学会等名 全史料協全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳥山淳
2. 発表標題 陳情日記から見えるもの
3. 学会等名 わびあいの里学習会「第17回ゆずり合い・助け合い・学び合う会」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山道宏
2. 発表標題 東アジアにおけるアメリカ帝国主義の展開と経済開発：戦後沖縄経済に着目して
3. 学会等名 経済理論学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山道宏
2. 発表標題 戦争 / 占領体験の思想化 - 戦後沖縄をてがかりに -
3. 学会等名 唯物論研究協会研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳥山淳
2. 発表標題 阿波根昌鴻氏の資料から「島ぐるみ闘争」の源流を考える
3. 学会等名 沖縄人権協会総会記念講演
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鳥山淳
2. 発表標題 「島ぐるみ闘争」の源流に迫る3つの日記 阿波根昌鴻資料の活用に向けて
3. 学会等名 わびあいの里学習会「第16回ゆずり合い・助け合い・学び合う会」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 秋山道宏	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八朔社	5. 総ページ数 224
3. 書名 基地社会・沖縄と「島ぐるみ」の運動	

1. 著者名 儀間文彰 仲本安一 比嘉幹郎 照屋義実 鳥山淳 黒柳保則 我部政男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 297 (173-206)
3. 書名 対話 沖縄の戦後	

1. 著者名 吉浜忍 林博史 石原昌家 大城将保 鳥山淳 浅井春夫 安里英子 荒川章二 新城俊昭 伊佐真一朗 石堂徳一 大田静男 恩河尚 川満彰 菊池実 北村毅 古賀徳子 地主園亮 清水史彦 瀬戸隆博ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 沖縄県教育委員会	5. 総ページ数 780(625-630)
3. 書名 沖縄県史 各論編第六巻 沖縄戦	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『阿波根昌鴻資料1 真謝日記』(わびあいの里反戦平和資料館ヌチドゥタカラの家 2017年)、『阿波根昌鴻資料2 陳情日記』(わびあいの里反戦平和資料館ヌチドゥタカラの家 2019年)、『阿波根昌鴻資料3 爆弾日記1号・2号』(わびあいの里反戦平和資料館ヌチドゥタカラの家 2020年)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野沢 あかね (ONOZAWA Akane) (00276700)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	小屋敷 琢己 (KOYASHIKI Takumi) (20404551)	琉球大学・教育学部・教授 (18001)	
研究協力者	秋山 道宏 (AKIYAMA Michihiro)		
研究協力者	富善 一敏 (TOMIZEN Kazutoshi)		
研究協力者	宇根 悦子 (UNE Etsuko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山根 頼子 (YAMANE Yoriko)		
研究協力者	小禄 裕子 (OROKU Hiroko)		
研究協力者	新里 泰史 (NIIZATO Yasufumi)		
研究協力者	畠山 典子 (HATAKEYAMA Noriko)		
研究協力者	高科 真紀 (TAKASHINA Maki)		
研究協力者	蓮沼 素子 (HASUNUMA Motoko)		
研究協力者	渡嘉敷 紘子 (TOKASHIKI Hiroko)		
研究協力者	小濱 武 (KOHAMA Takeshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡本 直美 (OKAMOTO Naomi)		
研究協力者	喜久里 瑛 (KIKUZATO Aki)		
研究協力者	津覇 美那子 (TSUHA Minako)		
研究協力者	小野 百合子 (ONO Yuriko)		
連携研究者	安藤 正人 (ANDO Masahito) (90113422)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
連携研究者	高江洲 昌哉 (TAKAESU Masaya) (10449366)	神奈川大学・外国語学部・非常勤講師 (32702)	